

シリーズ
とき

季のことば「冬」



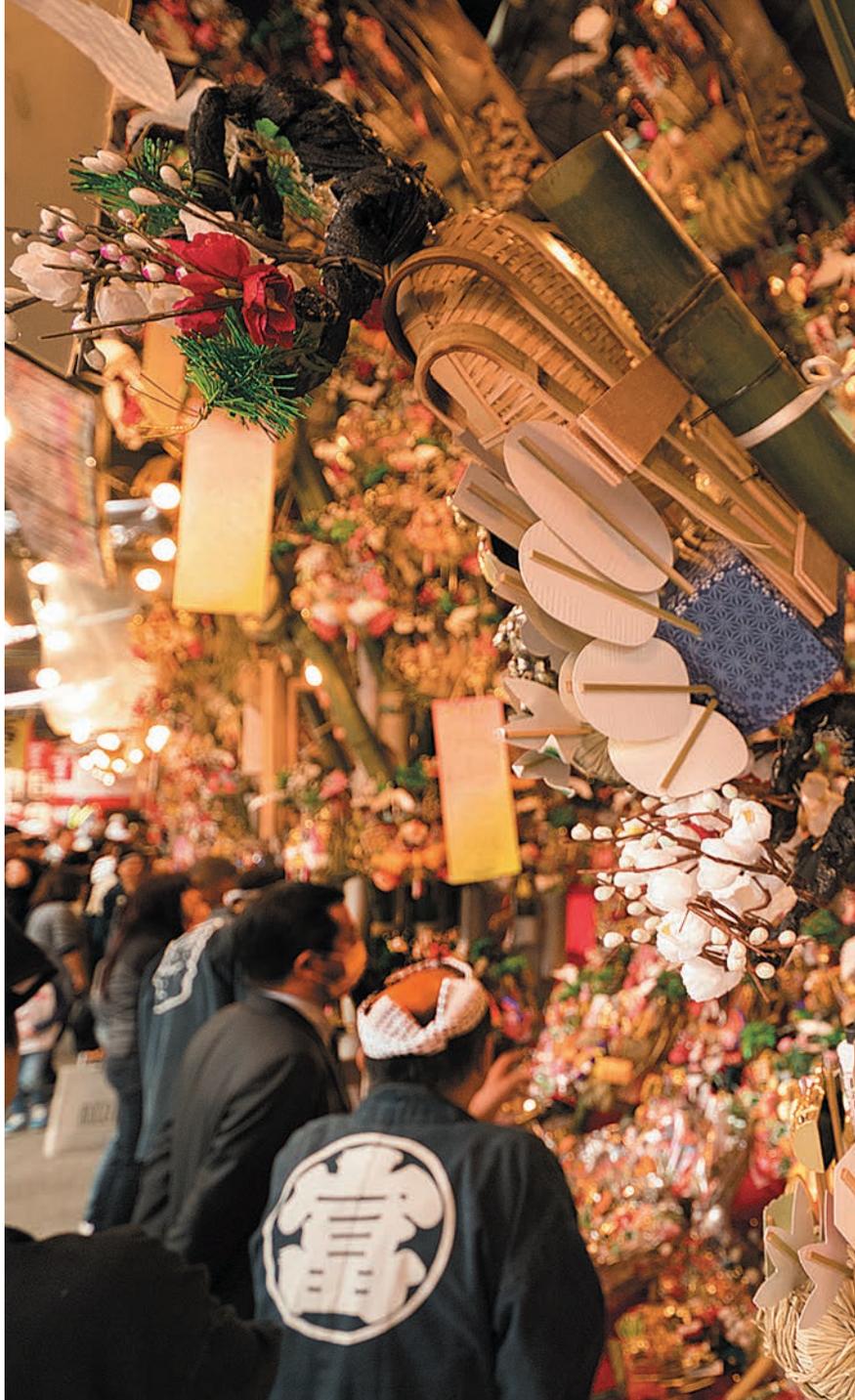
「ことば」によって
豊かな四季を楽しむ私たち日本人。
名句や名歌を訪ねながら、
日本文化の豊かさをご紹介します。



季ときのことは冬

私たち日本人は、季ときに名前をつけ、豊かな四季を楽しむ術をもっています。季ときのことはの美しさを感じ、季節のうつろいの中に

「ゆとり」をみつけてみませんか。



南北に長い日本列島は、地域によってかなり気候が変わりますが、その違いが最も顕著になるのは冬かもしれません。暦の上の冬は、立冬(2021年は11月7日)から。まだこれから紅葉の見頃を迎えるという地域もあれば、すでに落葉して初雪が降った地域もあり、小春日和、木枯が吹く日を繰り返しながら、寒さの厳しい季節にゆっくりと入っていきます。こたつやストーブを出し、みんなで温かい鍋を囲んだり熱燗を飲みたくなれば、いよいよ本格的な冬の到来です。

初冬には収穫に感謝する行事や、「酉の市」のような福を呼び込むお祭りも行われますが、基本的に冬は春に向けて再びエネルギーを蓄えるための「陰」の時期。その語源はいくつかありますが、生命力を呼び覚ます「振る」、から「冬」になったという説もあります。

陰の極まる「冬至」は、太陽の力が復活する節目の日。陽の気を補う柚子湯には、邪気みそを払う禊ぎの意味もあるそうです。





一の酉夜空は紺のはなやぎて

渡邊千枝子

【季語】一の酉

冬のことは

牡丹焚火【はたんたきび】

長寿を全うした牡丹の木を焚いて供養する伝統行事。福島県の須賀川牡丹園では毎年11月の第3土曜日に行われる。

柚子湯【ゆずゆ】

1年で最も日が短い冬至(12月22日)に柚子の実を浮かべた風呂。入ると冬の間風邪をひかないと言われている。



初霜【はつしも】

その冬に初めて降りた霜で、厳しい冬の訪れを知らせる現象。晴れた寒い夜に生じやすく、朝日にきらめく様子が美しい。

浮寝鳥【うきねどり】

水に浮いたまま気持ち良さそうに眠っている鳥。この時期は、越冬のために日本に渡ってきた鳥も多い。

綿虫【わたむし】 圓雪虫

晩秋から初冬にかけて群れをなしてふわふわと飛ぶ昆虫。北国では、この虫が飛び始めると降雪が近いと言われる。

雑炊【そうすい】 圓おじや

野菜や魚類の汁に米を加えたお粥の一種。さまざまな食材を入れた鍋料理の後のメの一品としても好まれる。

山茶花【さざんか】

開花期が長いので、花が少ない冬には貴重な花木。椿と似ているが、花ごとポトリと落ちる椿と違い花弁ごとに散る。

時雨【しぐれ】

晴れていても急に曇り、さあっと短い時間に降る雨で、初冬に多い。京都の風物詩でもあり、「北山時雨」と呼ばれる。

冬の名句

木がらしや目刺にのこる海の色

芥川龍之介 【季語】木枯(こがらし)

雪もよひ障子のあをみ増さりゆく

室生犀星 【季語】雪催(ゆきもよひ)

湯豆腐やいのちのはてのうすあかり

久保田万太郎 【季語】湯豆腐

大根引き大根で道を教へけり

小林一茶 【季語】大根引(だいこん引き)

鍋焼の火をとろくして語るかな

尾崎紅葉 【季語】鍋焼

冬の名歌

田子の浦にうちいでて見れば白妙の

富士の高嶺に雪はふりつつ

山部赤人

寺庭に夕静あゆみさむけきに

目にとめて見つ白き山茶花

木下利玄

冬の神もどりはなち駈けたまふ

あとにつづきぬ木がらしの風

与謝野晶子